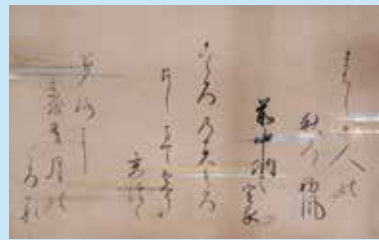
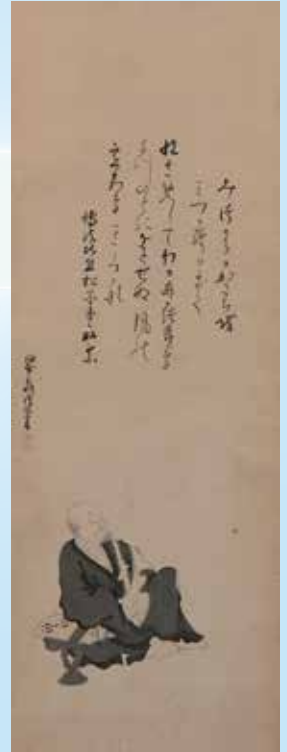


八幡で感じる 寛永文化

松花堂昭乗の書画、茶の湯



江戸時代初期の寛永年間（1624～1644）を中心に、新しい時代を切り拓くしなやかな文化・芸術の潮流が生まれました。戦乱の世に終わりを告げ、京都で花開いた寛永文化です。多様な人が集い、交流が生まれ、つながり、はぐくまれたその拠点は、都の中心のみならず、少し離れた八幡の地にもありました。八幡には、当時の文化人として一目置かれる石清水八幡宮瀧本坊の僧・松花堂昭乗（1584～1639）がいました。茶の湯を愛し、書画をよくした昭乗は、後に「寛永の三筆」のひとりとして知られます。昭乗が作品に込めたのは、穏やかな世を願う気持ちでした。そんな昭乗の心に触れて頂きたい展覧会です。



2026 **10.17** (土)
— **12.6** (日)

*一部展示替えを行います

前期 10月17日(土)→11月8日(日)
後期 11月10日(火)→12月6日(日)

佐川田昌俊記念講演・記念茶会

開催日時：10月31日(土)午後1時30分より

〈講演〉寛永文化—佐川田昌俊と松花堂昭乗を中心に
講師：渡辺憲司氏（立教大学名誉教授）

場所：松花堂美術館 講習室

〈茶会〉入替制 ①午前10時 ②午前11時 ③12時 ④午後3時

場所：松花堂庭園内茶室 松隠

参加費：5,000 円（展覧会見学には別途料金が必要です）

定員：65 名（事前申込制）

問合せ先：「佐川田昌俊記念講演・記念茶会」

実行委員会事務局（担当 山野 070-5689-3311）



学芸員による展覧会オープニングトーク

開催日時：10月17日(土)午後2時より（約40分）

場所：松花堂美術館 展示室

参加費：無料（別途観覧料が必要です）

参加方法：事前申込不要。

開始時間前に展示室にお集まりください。

関連講座

「京阪沿線魅力再発見 2026 ぶらり街道めぐり」共催事業

テーマ 松花堂昭乗と華ひらく寛永文化

講座 建築史家から見た寛永という時代—戦国時代から泰平の世へ—

開催日時：11月21日(土)午後1時より

出演：旭堂南龍氏（上方講師）、平井俊行（松花堂庭園・美術館長）

場所：松花堂美術館 講習室

参加費：1,500 円（特別公開含む特別拝観券付き）

定員：70 名（要申込）



「古文化保存協会 京都非公開文化財特別公開」関連事業

内容：建築史家から見た寛永という時代—石清水八幡宮と松花堂昭乗—

開催日時：12月5日(土)午後2時より

講師：平井俊行（松花堂庭園・美術館長）

場所：松花堂美術館 講習室

参加費：1,000 円（特別公開含む特別拝観券付き）

定員：70 名（要申込）

問合せ先：松花堂庭園・美術館（075-981-0010）

八幡市立松花堂美術館

〒614-8077 京都府八幡市八幡女郎花34-1

Tel: 075-981-0010 Fax: 075-981-0009

<https://shokado-garden-art-museum.jp/>

【交通のご案内】

- 京都駅から近鉄電車「近鉄丹波橋」駅で京阪電車に乗り換え（大阪方面）
- 京阪電車「石清水八幡宮」駅または「榊原」駅から京阪バス「大芝・松花堂前」下車すぐ
- JR 学研都市線「松井山手」駅から京阪バス「大芝・松花堂前」下車すぐ



- 1 東山遊楽図屏風 2 名越三昌作 松花堂好四方笥
- 3 松花堂昭乗筆 百人一首色紙帖 部分 4 藤村唐軒箱書 呉器茶碗
- 5 松花堂昭乗筆 歌仙絵色紙 藤原高光 6 松花堂昭乗筆 和歌巻
- 7 小堀遠州 松花堂昭乗 中村久越 連歌断簡
- 8 細合半斎筆 松花堂昭乗自画像写 9 松花堂昭乗筆 鎮西八郎為朝像

*すべて松花堂美術館蔵



「松花堂庭園（国指定史跡・名勝）」

名勝松花堂及び書院庭園災害復旧工事のため、外園のみ開園しています。詳しくはお問い合わせください。

開園：午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）

休園：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

料金：一般300円、学生220円、こども150円

※11/14～12/6は内園公開のため料金が異なります



ボランティア
ガイドによる
庭園案内

無料

（要予約）



「京都吉兆 松花堂店」

「吉兆」の創業者・湯木貞一が、松花堂昭乗の「四つ切塗箱」をヒントに生み出した「松花堂弁当」。地元の野菜、季節の鮮魚で彩られた「松花堂弁当」を、昭乗ゆかりの地で是非ご賞味ください。

※ご予約は吉兆松花堂店<075-971-3311>まで

※現在は、完全予約制となっております。詳しくはお問い合わせください。